

水ビジネスの動 向などテーマに

造水七講演会

造水促進センター(藤村
宏幸理事長)は11月16日、
「水、環境、自然災害」に関
する調査研究と「水ビジ
ネスをめぐる最近の動向」
をテーマに18年度の造水技
術講演会を開催する。

会場は三重県四日市市の
三重北勢地域地場産業振興
センター(じはさん三重)。
水再生先端技術地域適用性
調査(経済産業省)の結果
の普及が目的。今回は三重
大学大学院生物資源学研究
科の環境創成学講座と環境
保全学講座の開設シンポジ
ウムもプログラムに組みれ
ている。

定員は150人で参加料
は無料。申込み締切りは11
月10日(定員になり次第締
切り)。申込み、問い合わせ
は同センター水処理技術
部(電話03-156444-
06886)まで。

プログラムは次の通り。
▽資源循環型廃水処理の
新展開く水再生と同時に資
源を回収する持続可能プロ
セス(平沢泉・早稲田大
学理工学部教授)

▽環境創成学講座開設シ
ンポジウム伊勢湾および
大阪湾地域を求められてい
る水利用技術の考え方Ⅱ
大学サイドから見た最近の
水事情とその観点(加治佐
隆光・環境創成学講座教

授、三重県の工業用水に
関連した話(木本凱夫、同、
淀川水系/流汚濁の総負
荷量管理に向けた取組み
(山上聡・木津川源流研究
所所長)、海洋汚染防止に
も有効な養殖場の給餌ス
テム開発(山下光司・環境
創成学講座助手)

▽オゾンを利用した水再
生利用技術(廣辻淳二・三
菱電機先端技術総合研究所
環境システム技術部長)

ガイザ

スライダー弁

フロー式水位調整弁・水槽内設置型 SD-10形

株式会社 栗本鐵工所 バルブ事業部
TEL 本社 06-6538-7661 東京支社 03-3436-8111

▽ISO/TC224と
わが国水道事業の展開(吉
村和成・グローバル・ウオ
ータ・ジャパン代表)

▽環境保全学講座開設シ
ンポジウム三重県を中心
とした自然災害研究Ⅱ(略

水 道 産 業 新 聞 2006年(平成18年)10月26日



●数百万台のポンプでハリ ケーン撃退

昨年ハリケーン・カトリ
ーナで大きな被害を出した
米国、本格的なハリケー
ンシーズを迎え、ステーブ
ンズ工科大学のアラン教授
が提案したハリケーン撃退
構想が大きな波紋を興して
いる。

地球温暖化による海面温
度の上昇で、ハリケーンは
増殖し、巨大なエネルギー

を蓄えるので、ハリケー
ンが近づく前に通過予定地区
を、海底から冷海水をくみ
上げ、予め海面温度を下げ
ることにより、ハリケー
ンの増殖を抑え、被害を少な
くする構想である。

具体的には「大西洋・湾
岸地区に、風力発電または
波力発電により駆動する数
百万台の水中ポンプを、320
キロに渡り布設、海面下120
メートル付近の冷海水をくみ上
げ、ハリケーン襲来予定時
刻の24時間前からポンプを
稼働させ、海面温度を3℃
低下させる。これによりハ

リケーン強度を最低、一段
階低下させることが出来
る。費用は約1200億円で、
カトリーナによる被害(死
亡者1500人、被害総額1兆
円)に比べると微々たる投
資に過ぎない、すぐデモ機
を作ろう」とアラン教授は
力説するが、米国海洋気象
協会幹部は「環境・生態系
への影響を考慮していない、
ハリケーンは気まぐれであ
り、通過地点は24時間前に
決められない、素人の馬鹿
げた構想」と冷やかに嘲
笑している。

しかしハリケーンの進路

にあたるフロリダ、ルイジ
アナの科学者達は「ポンプ
の固定方法はどのようなの
か」、「冷海水はどの位拡散
するのか」、「典型的なハリ
ケーンの勢力範囲は、200
から300マイル(480キロ)な
ので、もっとポンプを長く
布設せよ」と深刻である。
別の科学者は「そんなこと
より巨大氷山を持って来た
方が良い」とか、本格的な
ハリケーン襲来を前に、海
水温を「低下」させるため
に、科学者が熟くなってい
る。

(Y)